

## 研究ノート

### ○平田副主任研究員日本水産学会水産学技術賞受賞



平田 靖 副主任研究員

かき研究部の平田靖副主任研究員が、平成16年度日本水産学会水産学技術賞を受賞しました。

この賞は、技術上著しい業績を上げ、水産学ならびに水産業の発展に貢献した研究者に授与されるもので、今回の受賞の対象になったのは「マガキの人工採苗技術開発に関する研究」です。これまで三倍体かき幼生をコレ

クターに安定的に付着させることは困難でしたが、コレクターを成貝と一緒に1週間程度浸漬して前処理すると、幼生の付着効率が飛躍的に向上することを明らかにしました。現在ではこの技術は一粒かきや縞かきなど、かきの人工採苗に広く用いられています。技術全般の向上に大きく貢献したことが学会にも認められ、受賞に繋がったといえます。



受賞対象となったかき採苗コレクターの前処理



### ○飯田副主任研究員が学位



飯田悦左 副主任研究員

栽培養殖部の飯田悦左副主任研究員は、「ヒラメの表皮増生症に関する研究」で広島大学から学位、博士（農学）を授与されました。

表皮増生症は、ヒラメ種苗生産過程の仔魚期に発生するウイルス性疾病で、一旦発生すると全滅に近い被害を受け、その後の生産がほとんど見込めなくなるため、感

染防止や被害軽減策が求められていました。この研究では、感染実験からヒラメ仔魚の発症メカニズムなどを明らかにし、飼育水の紫外線滅菌で感染を防止できることや、万一発生した場合には高濃度酸素飼育や低塩分飼育により被害を軽減できることなどの防除対策を明らかにしました。この研究で栽培漁業や養殖に用いる種苗の安定供給が見えてきたと、種苗生産機関や民間業者の間でも高く評価されています。



ヒラメの表皮増生症